

全校生の皆さん、4日間にわたる前期期末試験、お疲れ様でした。

頑張った度合の大きい人ほど、ほっとしているし、開放的な気分を味わっていることと思います。きっと疲れも溜まっていることでしょう。

さて、今週の火曜日から朝礼で耳にしている聖句は、「知識に基づいて話す力、恵みにふさわしく考える力を、神が私に授けてくださるように」という『知恵の書』の中の一節です。皆さんと一緒にこのことばに耳を傾けながら、定期試験の真ただ中にある生徒の皆さんはどんな気持ちでこれを聞いているのかな、と私は考えていました。

この聖句は、私たちにとっての学びの本質を教えていると言われています。知識を得ることはもちろん大切です。皆さんは、授業や試験を通して、たくさんの知識を身につけてきました。しかし、それらをただ記憶にとどめておくだけではなく、その知識をどう活かしていくか、それをどう話し、どう考えるかが、もっと重要なことであるとの聖句は言っています。試験は、皆さんの知識を試す機会でもありますが、実際にはそれ以上に、自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝える力を鍛える場でもあると言えます。

「恵みにふさわしく考える力」とは、身に付けた知識をただ自分のために使うのではなく、他者への配慮や思いやりを持って使うことを言っています。これから先、皆さんが社会に出る中で、その知識をどのように使うかが重要になります。自分自身の成功のためだけでなく、周りの人々と共に成長し、支え合っていくことを、神様は、皆さんに望んでいるのです。

ひとつ例を挙げてみましょう。

今月21日、能登半島を襲った豪雨災害のニュースが報道されました。元旦に起こった地震からの復旧作業が続く中、どうしてこんなことになってしまうのかと、私の胸はいっぱいになり、何もできない自分に苛立ちや無力さを感じるばかりでした。

しかし、その翌日、全国各地で災害復旧支援を行う「チーム富士山」というボランティアグループのメンバーたちが、被災地入りしたという記事をフェイスブックで見ました。

2、3年生の皆さんの中には覚えている人がいるかもしれません。 昨年の夏の水害で本校が被災した時にも、応援に駆け付けてくださったグループの方々です。彼らのTシャツの背中には、「できる時に、できる所で、できる事をする」という文字が書かれていました。

彼ら、彼女たちは、今この時にも、自分が身に付けた知恵と知識を生かし、様々な方法を用いて、現場で必要とされている支援を行い、多くの人々を救っています。

学んだ知識や知恵が、神様から与えられている愛の心と見事に統合され、活かされているのです。

試験の結果や点数は一時的なものです。でも、皆さんは、日々の学習や生活の中で向き合う様々なチャレンジを通して、多くのものを得ています。その過程で得た知識や知恵を、日常の様々な体験と統合し、経験に基づいて判断し、愛を持って行動できるなら、その力こそが、皆さんに与えられる本当の学力、学びの力なのだと思います。生涯を通して役に立つ生きる力です。

これからも、周りの人を幸せにすることのできる本当の知識と知恵を授けていただけるように祈りながら、成長を続けていきましょう。

今日で前期は終わり。明日から3日間の秋休みを挟んで、一息つく間もなく、後期が始まります。皆さんが後期に取り組むすべての学びの上に、神様の祝福が豊かにありますように。

また、3年生はすでに受験シーズンが始まっています。

それぞれの進路目標が達成できるように、先生方、そして、1、2年生のみなさんと共に、応援しています。今できる事に全力を尽くして取り組む力が3年生の皆さん一人一人に与えられますように。これで私の話を終わります。